

第13回東京・関東支部例会

1 日時 令和5年2月18日(土) 14:00～15:30

2 オンライン開催 (zoom)

3 参加人数 10名

4 内容

第1部 実践報告

1 「音と音楽の相違点について論証する」 小野 貴史

2 「GIGA スクール対応アカペラ教材」

～個別最適化学習と協働的な学習の一体化 内田 有一

第2部 支部プロジェクトに向けて

1 趣旨説明

2 素材に関わる実践事例紹介

(1) 紙と石

(2) 箏

第3部 意見交流会

今回の支部例会は、支部プロジェクトに向けた会員相互の交流を目的として開催した。

第1部では、小野会員から、「音」と「音楽」の相違点について、様々な文献を基にした提案があった。また、内田会員からは、自作のアカペラ教材をタブレットを活用して合唱指導に用いることで、個別最適な学びと協働的な学びとの一体化が図れるのではないかという提案があった。

第2部では、支部プロジェクトの概要に関する説明があった後、大学における「石」「紙」を素材とした音の探究から音楽づくり及び図形楽譜に関する実践、小学校における「箏」を用いた低・中・高学年での実践事例が紹介された。その後の意見交換会では、第1部と第2部で紹介された事例に加えて、特別支援学校の「教師が音を介して生徒と素材とを繋ぐ役割を担う。」という実態が紹介される中で、意見交流の中で、経験の再構成という視点から「意図」という言葉が一つのキーワードとして浮かび上がってきた。そこで、支部プロジェクトの発表に向けて、一つの素材が「教師の授業展開の意図」「作り手の意図」「聴き手の意図」「演奏者の意図」によってどのように教材化されていくのかについて、今後も各自が実践を通して追究していくこととした。